

2011年12月期(第33期)
決算説明資料(訂正版)

2012年2月14日

① 株式会社 小田原エンジニアリング

2011年12月期業績概要(1)

<経済の動向>

- ① 我が国の経済は依然として厳しい状況で推移した。
 - ・企業収益が改善するなど持ち直しに向けた動きで始まった。
 - ・東日本大震災や電力供給の制約の影響で、企業の生産活動は低下した。
 - ・震災からの復興が進みつつも、歴史的な円高の進行で輸出が弱含んだ。

- ② 世界経済は景気回復が弱まった。
 - ・中国では懸念材料はあるものの、内需を中心に拡大が続いた。
 - ・米国では失業率が高止まりし、景気回復は弱含みで推移した。
 - ・欧州では債務危機により持ち直しのテンポが緩やかになった。

2011年12月期業績概要(2)

<ODAWARAグループの活動>

- ① 国内外のモーター製造業界の設備投資動向に沿った製品を提供。
- ② 積極的な営業活動を展開。
- ③ 更なる技術開発とコストダウンに努めた。
- ④ お客さまに満足いただける、生産効率向上に寄与する製品を開発。
 - ・生産性を向上させた電気自動車駆動用モーターの全自動ラインシステム
 - ・アイドリングストップ用モーターの全自動巻線機
- ⑤ 連結業績の概要
 - ・受注高4,978百万円(前期比18.3%減)、受注残高4,072百万円(前期比2.2%減)、生産高5,301百万円(前期比8.3%増)。
 - ・中国向け家電関連の設備や省エネ関連の自動車向け設備等を中心に、売上高は5,068百万円(前期比22.2%増)。
 - ・生産効率の向上等で原価低減が図られ、営業利益は831百万円(前期比62.2%増)、経常利益は885百万円(前期比57.7%増)。更に、土地の減損損失85百万円や東日本大震災の義援金等7百万円などを特別損失に計上し、当期純利益は419百万円(前期比36.0%増)。

経営指標等の推移(連結)

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
売上高 (百万円)	3,086	4,444	3,035	4,148	5,068
経常利益 (百万円)	322	761	140	561	885
当期純利益 (百万円)	175	339	82	308	419
純資産額 (百万円)	6,956	7,150	7,070	7,279	7,579
総資産額 (百万円)	8,479	8,857	8,355	9,635	※ 9,957
1株当たり純資産 (円)	1,180	1,213	1,200	1,243	1,294
1株当たり当期純利益 (円)	29.71	57.57	13.99	52.60	71.70
売上高経常利益率 (%)	10.4	17.1	4.6	13.5	17.5

<訂正> ※ 10,079百万円→9,957百万円

業績推移(連結)

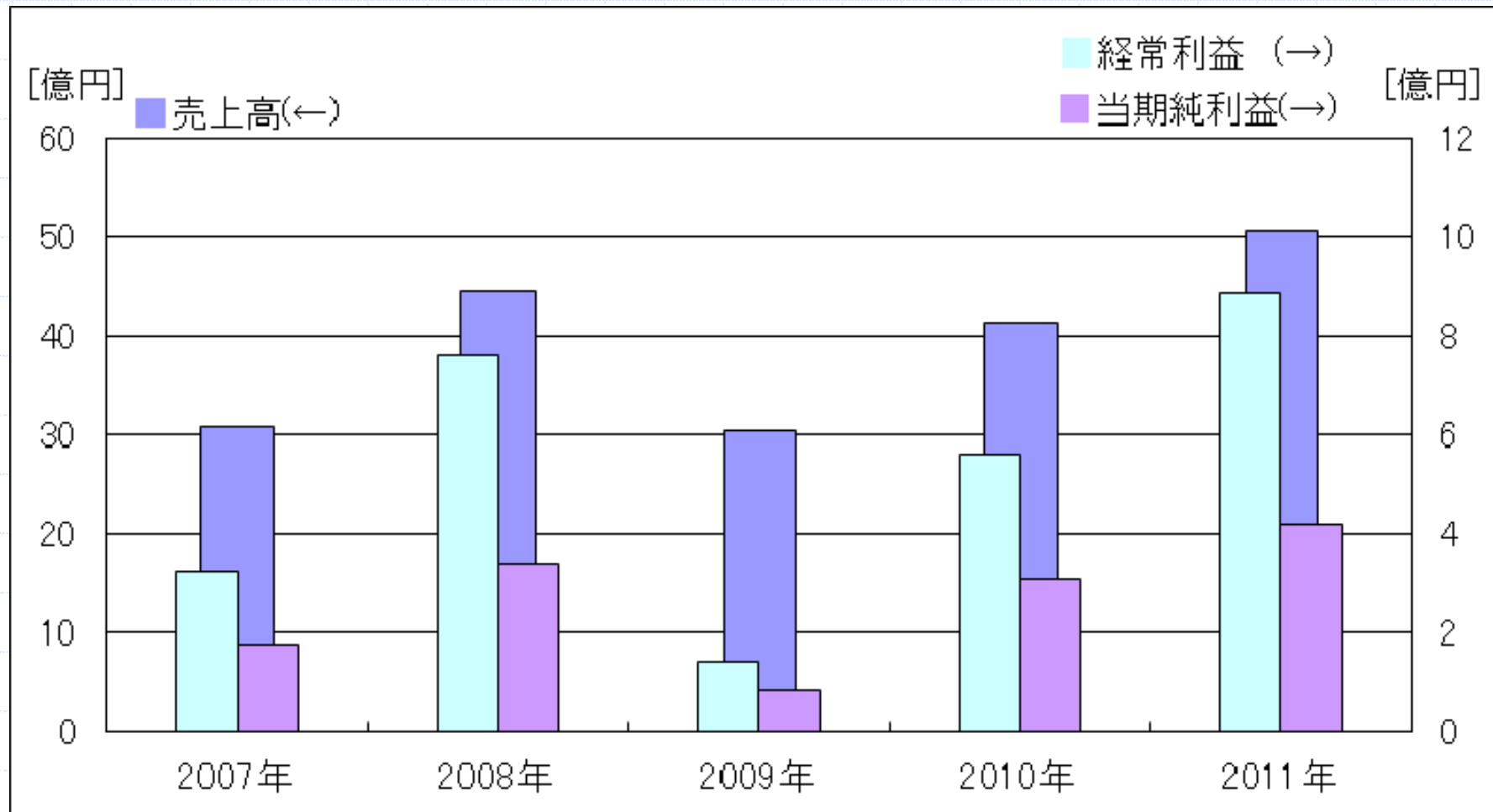
2007年：前年に続き上半期までの営業成績が低調

2008年：年後半までの受注獲得が順調、原価率が改善

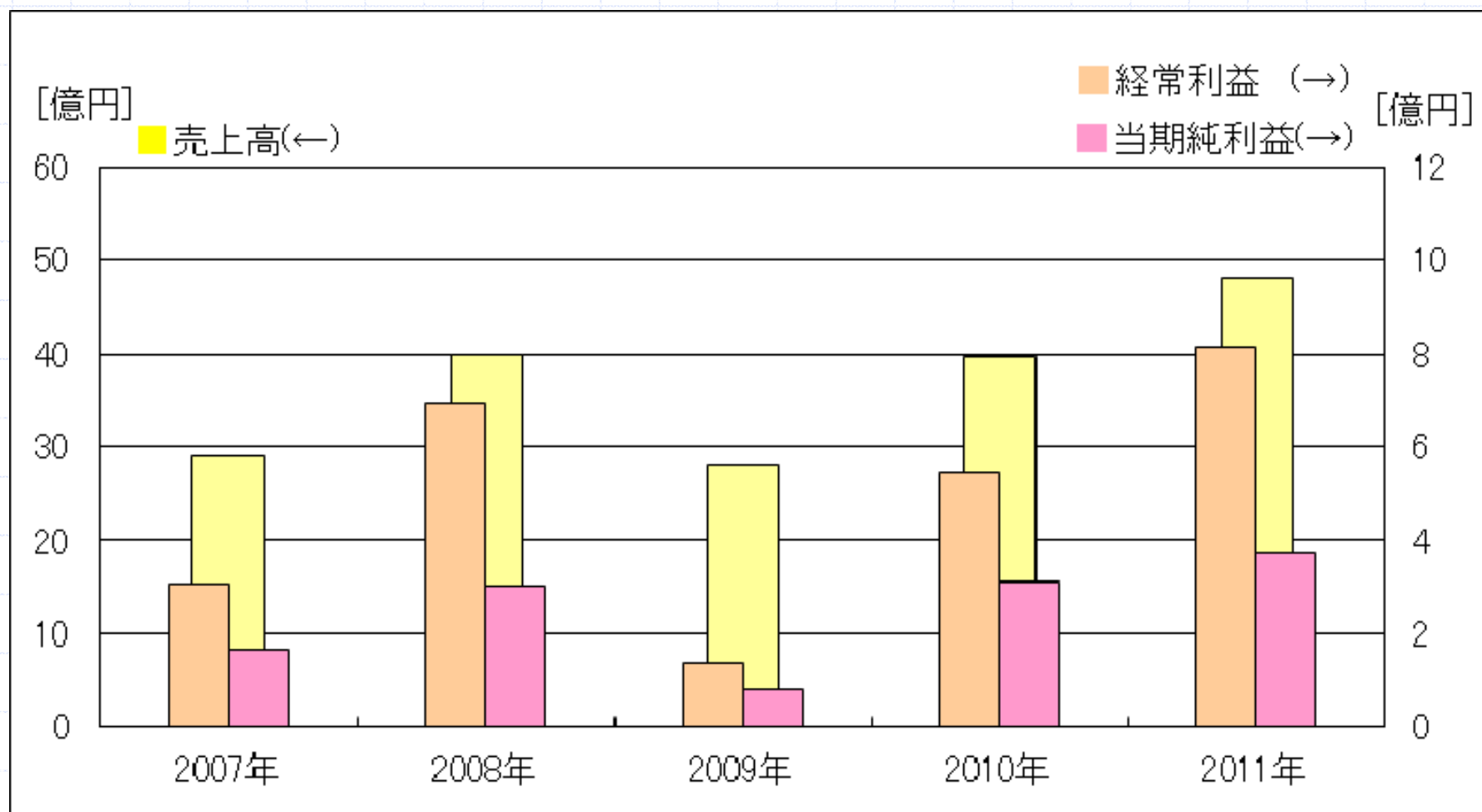
2009年：年前半の受注低調が業績へ影響

2010年：過去最高の受注高、受注環境・生産活動とも順調

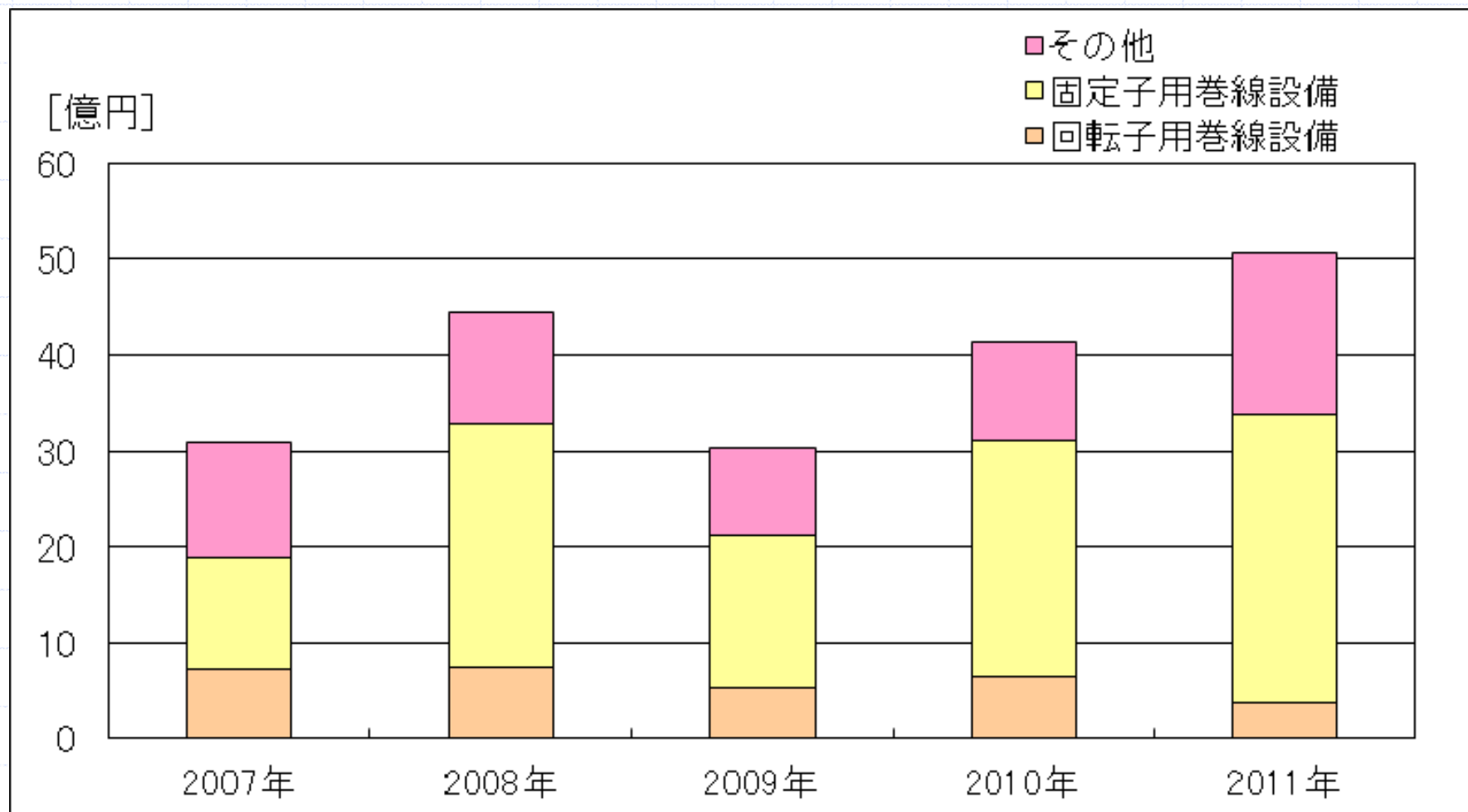
2011年：売上高は中国向け家電関連の設備や省エネ関連の自動車向け設備等を中心に好調に推移、原価低減も図れた



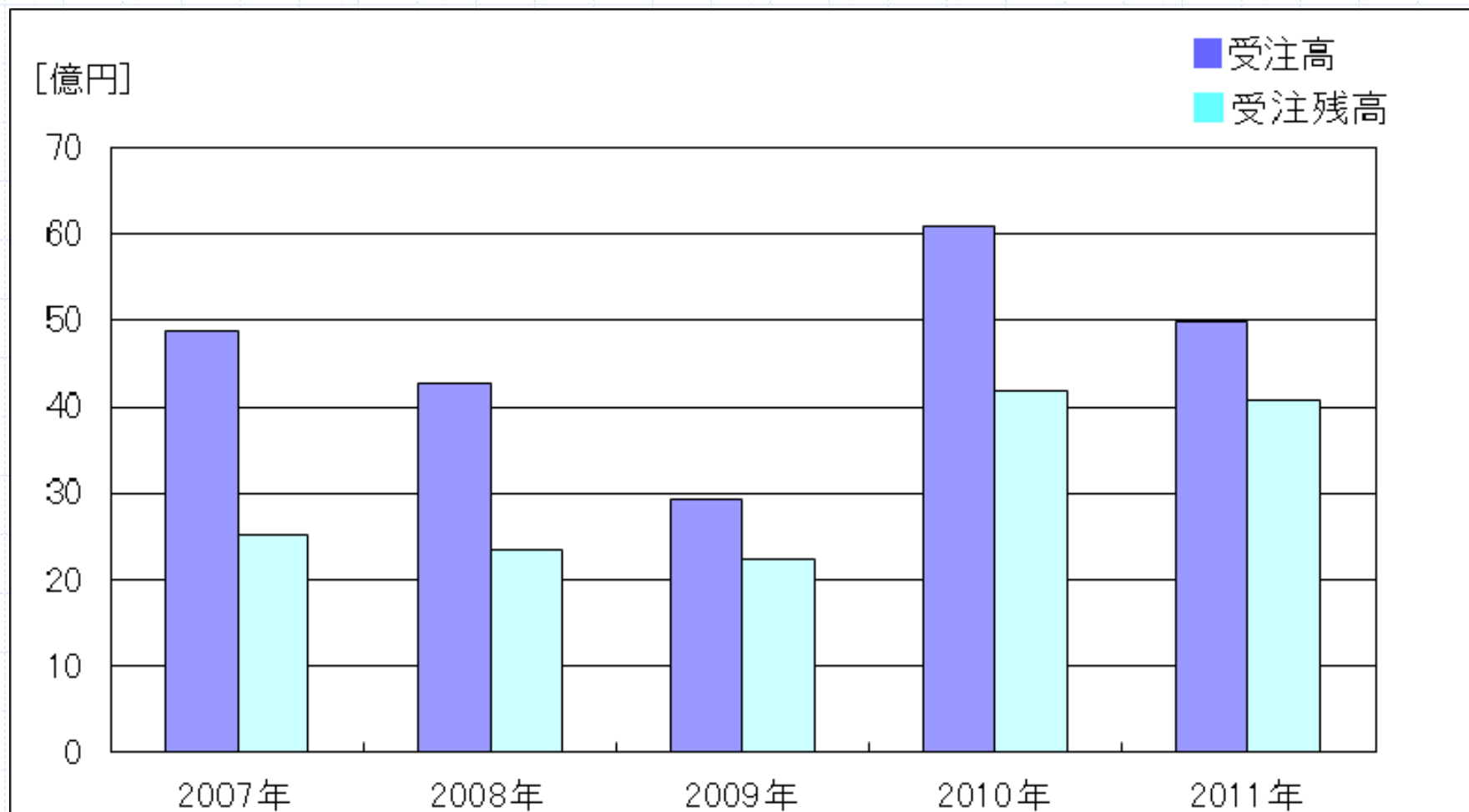
業績推移(単独)



製品別売上高推移(連結)

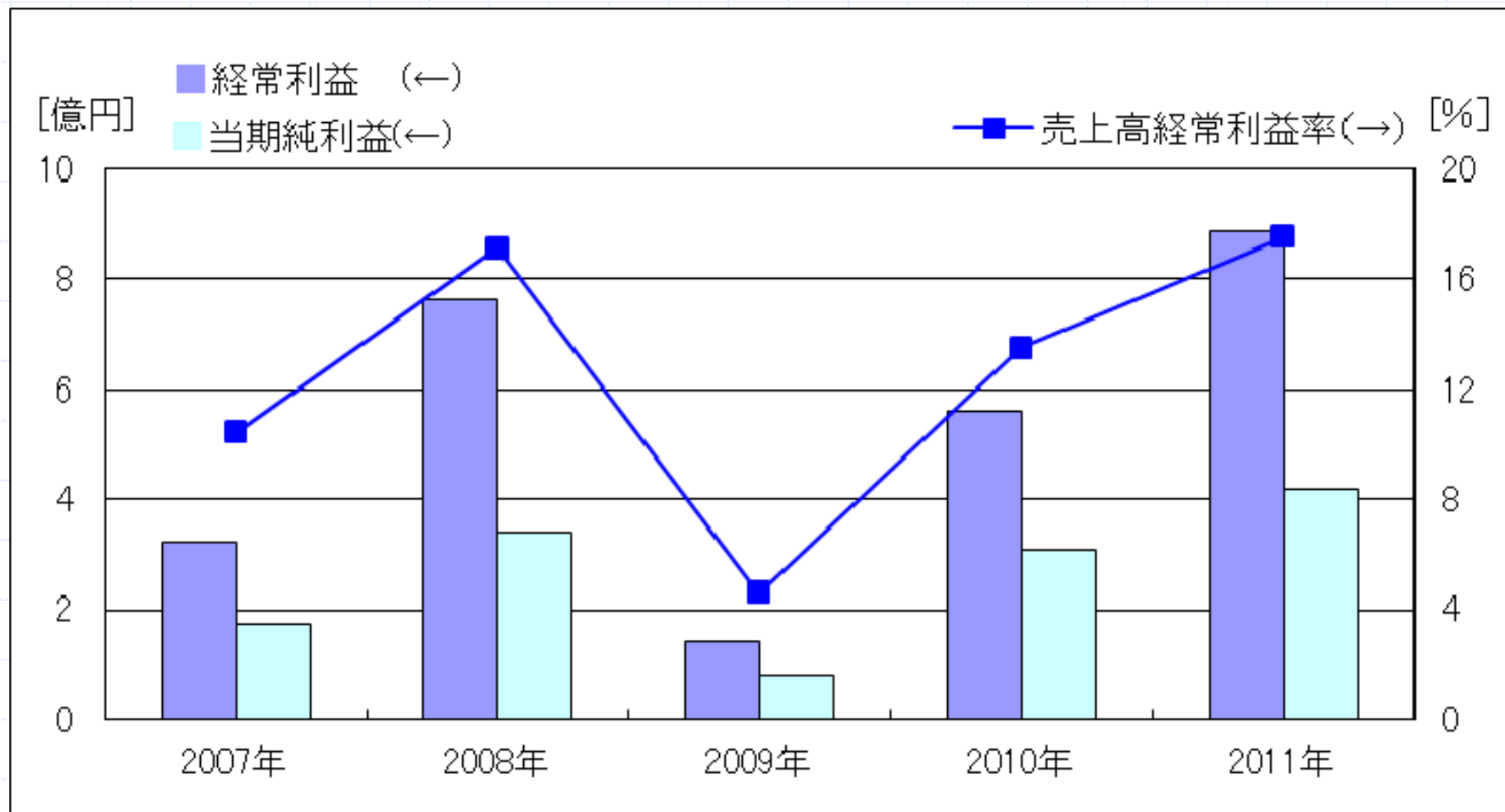


受注動向(連結)

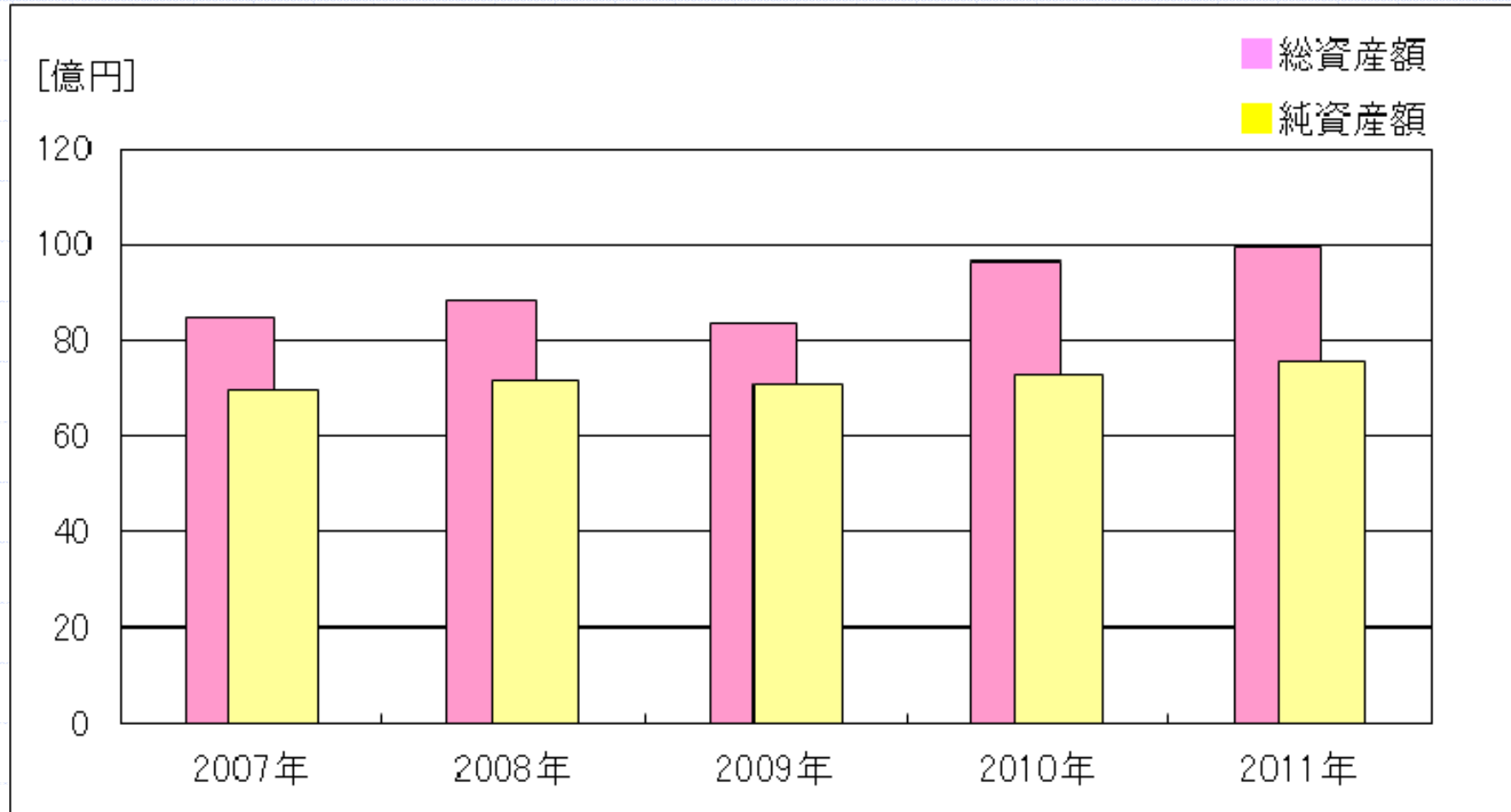


經常利益・当期純利益

・売上高經常利益率(連結)



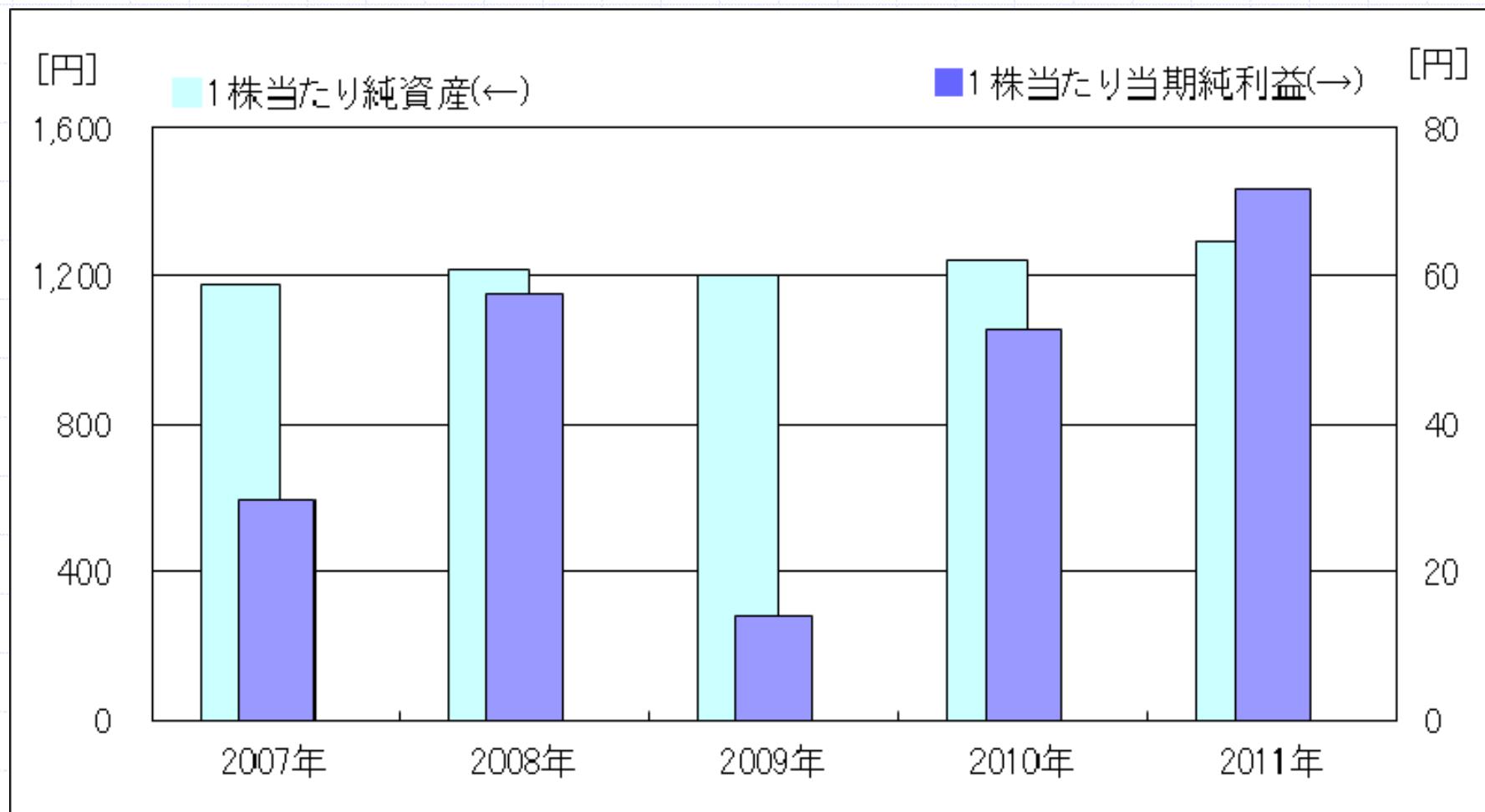
総資産額・純資産額(連結)



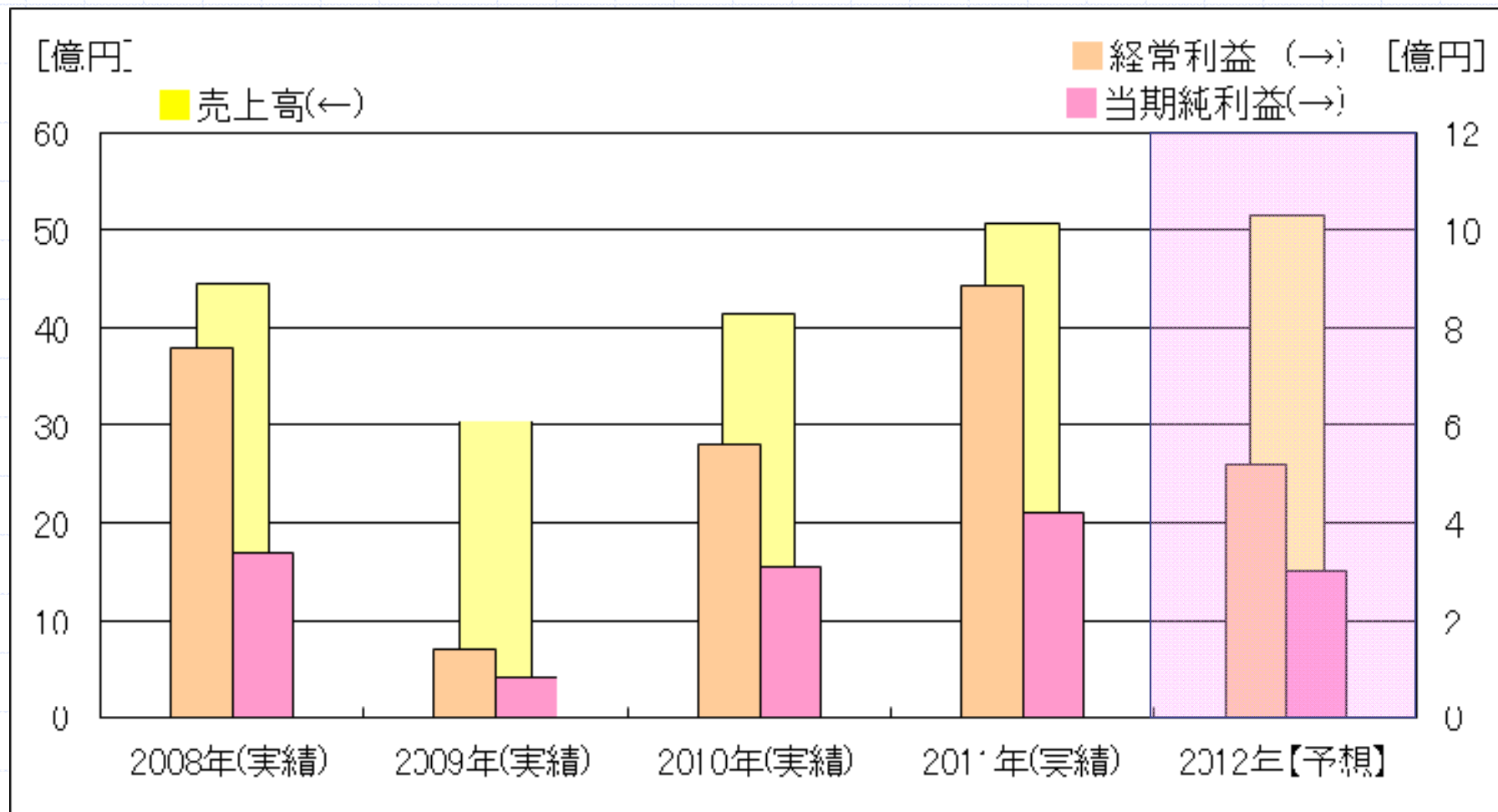
<訂正> 2011年総資産 10,079百万円→9,957百万円

1株当たり純資産額

・ 1株当たり当期純利益(連結)



業績予想(連結)



決算説明資料について

本資料に記載されている業績予想等については、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき、当社グループが判断したものでありますが、今後の様々な要因の変化により、将来の事業を取り巻く環境が大きく変動することがあります。

従いまして、将来の業績等につきましては、実際の業績等とは異なる場合がありますのでご了承ください。

株式会社小田原エンジニアリング